

第2章 環境の現状と課題

第1節 本市の概況

1 位置と地勢

本市は、千葉県北部の北総台地の中央に位置し、東西約10 km、南北約11 km、面積53.88 km²を有し、東京都心から東に50~60 km圏、成田空港からは西に約4 kmのところまに位置しています。

北は成田市、西は酒々井町、南は八街市、東は山武市・芝山町に接しています。

北総台地の高台地帯である本市は、高崎川、根木名川の源をなし、肥沃な農地や自然環境に恵まれています。

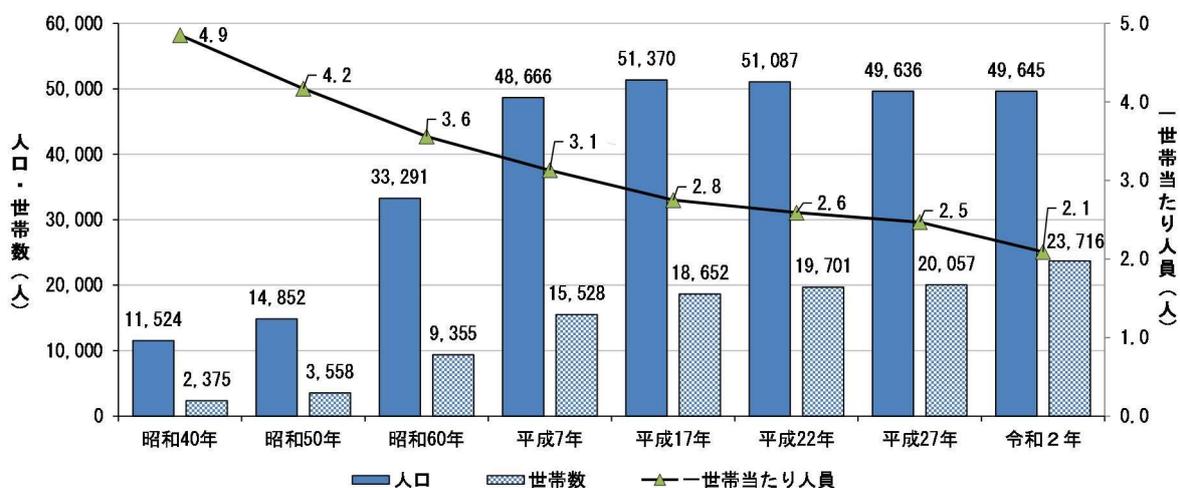
水系に沿ってきれいな谷津地形が見られ、いくつもの谷津田が広がっています。

昭和46年に東関東自動車道が富里ICまで開通し、昭和53年には隣接する成田市に成田空港が開港しました。

2 人口

昭和46年の東関東自動車道開通、昭和53年の成田空港開港を契機に飛躍的に増加しました。

近年、人口は微減傾向となっていますが、世帯数は増加しているため、一世帯当たりの人員は減少傾向で、核家族化が進んでいます。



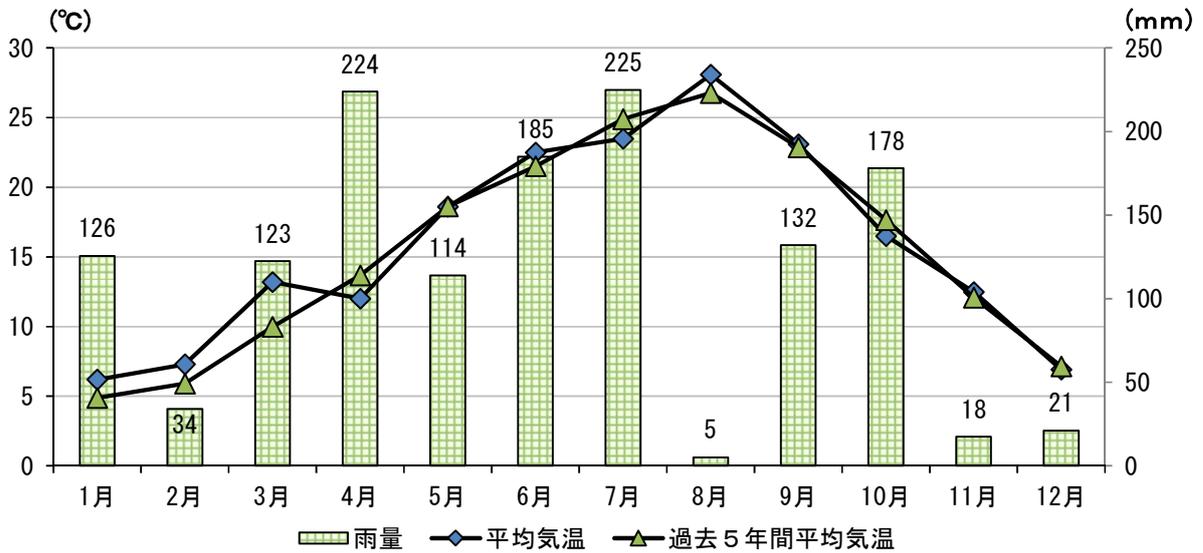
資料：富里市統計書

図 人口・世帯数の推移



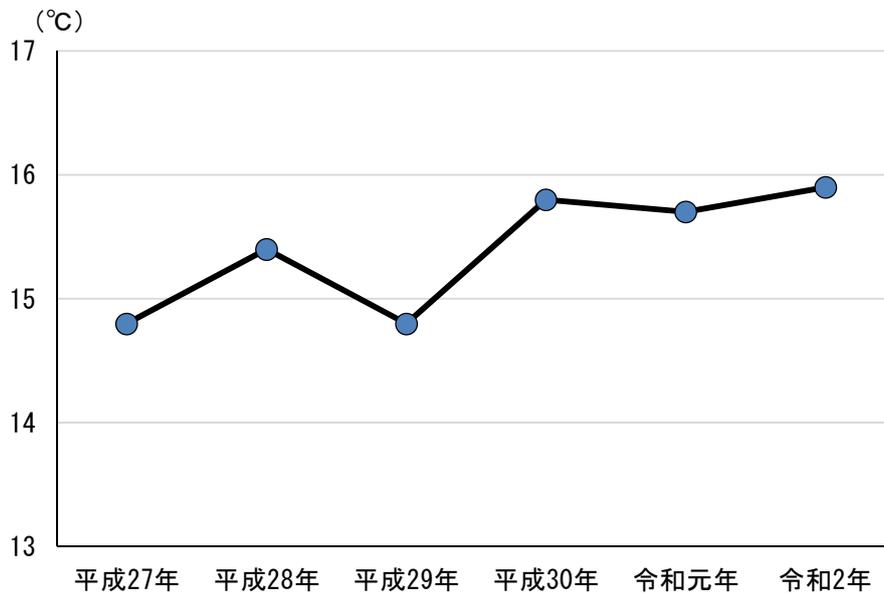
3 気象

本市の令和2年の年平均気温は15.9℃、総降水量は1,383.5mmで、過去5年間の年平均気温は15.5℃、平均降水量は1,434mmとなっており、比較的温暖な気候となっています。
年平均気温の推移を見ると、気温が上昇傾向となっています。



資料：富里市統計書

図 月別平均気温・雨量（令和2年度）



資料：富里市統計書

図 年平均気温の推移



4 土地利用

土地利用の状況は、畑の割合が最も高くなっていますが、近年は田、畑、山林が減少し、宅地が増加しています。

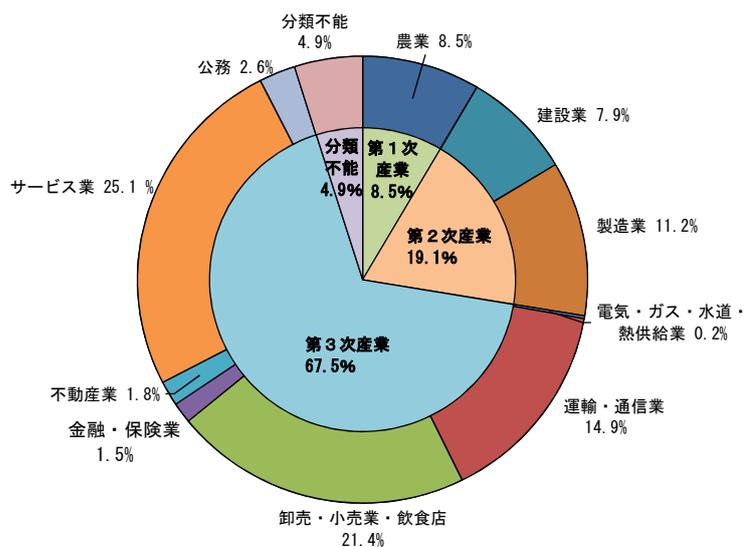


資料：富里市統計書

図 土地利用状況の推移

5 産業

就業者数の割合は、サービス業が最も高く、卸売・小売業・飲食店、運輸・通信業と続いています。



資料：富里市統計書

図 産業別就業者割合



第2節 自然環境の現状と課題

1 地形・地質

本市は、洪積層の台地である北総台地上に位置し、地層の厚さは地域によって異なりますが、表土（黒土）、関東ローム層（赤土）、常総粘土層、成田層（砂層）の順に地層が重なっています。

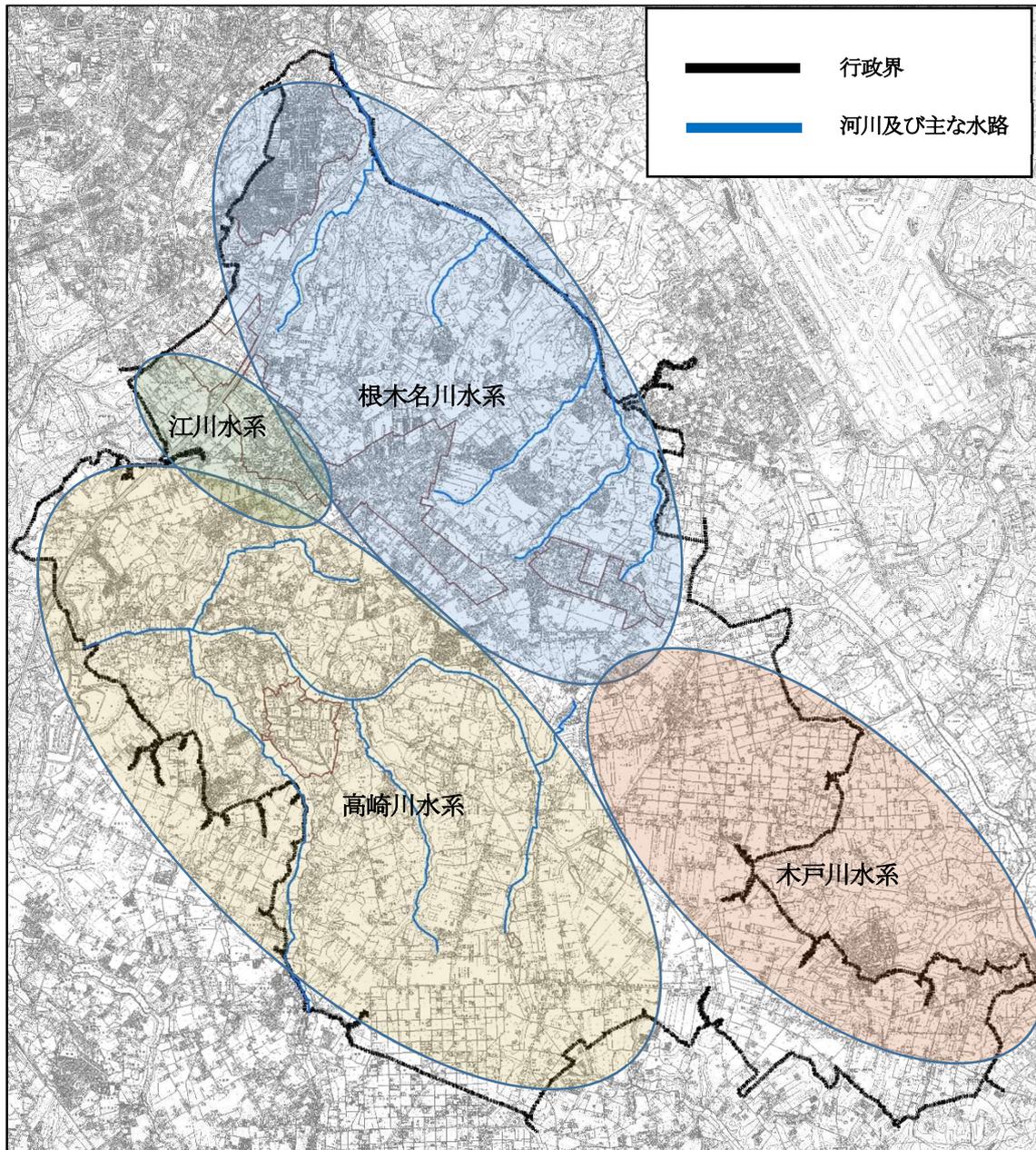
台地面は海拔 40m 前後で一面に平らで、それを水流が削った跡が 5～20m の深さの谷（谷津）になっています。台地と谷津の織りなす地形のひだが、この地域の地形の特徴といえます。台地面は畑や山林に、谷津は水田として利用されていますが、長年放置されている休耕田も多くなっています。

課題 ◇重要な地形・地質の保全と活用



2 水系

本市域には、高崎川（印旛沼を經由して利根川へ）、根木名川（利根川の支流）、江川（印旛沼を經由して利根川へ）、木戸川（太平洋へ）と、支流を含めて4つの河川流域があります。高崎川と根木名川は、その源流が本市内にあります。



- 課題**
- ◇多様な機能を有する水辺の保全と活用
 - ◇河川と良質な湧水の保全と活用
 - ◇自然環境に配慮した河川・水路等の整備



3 動植物

本計画の策定に当たり、動植物の分布調査を行い、自然環境の状況の把握に努めました。

本市は市街地から山林、水辺や池沼、河川まで多様な環境を有しており、それぞれの環境に適合した多様な動物種が確認されています。現地調査の概要は以下のとおりです。

項目	調査方法	調査時期
植物	調査地域を踏査し、生育する植物(シダ植物以上の高等植物)の種数を記録した。	秋(10月)
哺乳類	・痕跡調査(フィールドサイン) 現地に残されている生活痕跡(営巢の跡、足跡、ふん、つめ跡など)や死体、毛皮、骨格等を発見し、生息種を確認した。	
鳥類	・ロードサイドセンサス 調査は調査地域内にラインセンサスルートを設定して行い、調査コース上を時速1~2kmで歩行し、半径25mの範囲内に出現した鳥類の種・個体数を順に記録した。 ・任意調査 ロードサイドセンサスを補完するため、現地の状況に応じて見渡しの良い場所で観察するなどして、鳥類を把握した。	
両生類、爬虫類	調査範囲を踏査し、直接観察、鳴き声などにより生息種を確認した。	
昆虫類	調査地域内に生息する種を把握するため、ルッキング法、ネットティング法等により生息種を確認した。 ただし、今回の調査は、市民等による継続的な調査を推進し、自然環境への意識啓発を図るツールとして活用するという目的のため、市民が関心を持ちやすいチョウ類、トンボ類を対象として調査を実施した。	

調査地点番号	調査地点		調査日
1	谷津(丘陵地)	久能付近の丘陵地の谷津	令和2年10月13日
2	都市公園	富里中央公園	令和2年10月13日
3	谷津(河川沿い)	富里工業団地付近の谷津	令和2年10月14日
4	畑地	両国沖付近の畑地	令和2年10月14日



調査地点	調査地点概要
<p>1. 谷津（丘陵地） 久能付近の丘陵地 の谷津</p>	<p>谷津の斜面林ではスダジイ、シラカシ、コナラ、ムクノキなどの常緑樹・落葉樹の混交林が広くみられ、斜面下の林縁ではゼンマイ、ワラビ、カニクサなどのシダ植物やアキカラマツ、カラスウリ、ヤマユリなどの草本類、ヤマコウバシ、モミジイチゴ、ハナイカダなどの木本類の低木がみられ、里山環境を代表する種が多く生育していた。</p> <p>休耕田ではヨシ、ガマなどが優占する高茎草本群落や、ミゾソバなどが優占する低茎草本群落、ヒメミズワラビ、キカシグサ、キクモなど小型の湿性植物がまばらに生育する湿地など多様な植生がみられ、ミズニラ（環境省：準絶滅危惧）、クロヒロハイヌノヒゲ（千葉県：Dランク）といった希少な種も確認された。</p> <p>稲刈り後の水田やその周辺ではアメリカミズキンバイ、コナギ、イボクサなど水辺を好む種が多くみられた。</p> <p>また、調査地東のコンクリート水路ではコムラサキ（千葉県：Cランク）が確認された。</p> <p>動物については、水田やその周辺では高次消費者のタヌキやイタチの足跡が確認されたほか、水路や斜面下の水溜まりでトウキョウダルマガエル（環境省：準絶滅危惧、千葉県：Bランク）、ヌマガエルが確認された。鳥類ではアオサギ、ダイサギ、カワセミ、キセキレイ（千葉県：Bランク）などの水辺に生息する種が確認された。</p> <p>また、休耕田や日当たりのよい林縁の草地ではシュレーゲルアオガエル（千葉県：Dランク）、ニホンカナヘビ（千葉県：Dランク）のほか、イチモンジセセリ、ウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン、キタテハなどのチョウ類やナツアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボなどのトンボ類が確認され、谷津の斜面林ではコゲラ、カケス（千葉県：Dランク）、シジュウカラなど樹林性の鳥類が確認された。</p>



※千葉県：ランクの選定基準は以下の通りです

- X：消息不明・絶滅生物
- A：最重要保護生物
- B：重要保護生物
- C：要保護生物
- D：一般保護生物
- RH：保護参考雑種

資料：千葉県レッドリスト 植物・菌類編 2017年改訂版
千葉県レッドリスト動物編 2019年改訂版

(谷津の休耕田)



調査地点	調査地点概要
<p>2. 都市公園 富里中央公園</p>	<p>「野鳥の森」の樹林地ではイヌシデ、コナラ、ムクノキなどが優占する落葉広葉樹林やスギ・ヒノキ植林が管理・保全されており、林床ではサラシナショウマ、フタリスズカ、キンミズヒキなど、林縁ではミツバアケビ、ヤマハッカ、ツリガネニンジンなど、里山環境を代表する種が多くみられた。斜面の草地では草刈り等の管理の影響で確認種は少なかったが、刈り残された箇所ではアキカラマツ、ゲンノショウコといった里山環境に生育する種やワルナスビ、セイタカアワダチソウなどの帰化種がみられた。</p> <p>「水鳥の池」ではヨシやガマなどの高茎草本が優占して生育しており、周辺の湿地ではミゾソバ、オランダガラシ、セリなどの湿性植物がみられた。</p> <p>「湿生植物園」は草刈りが行われた直後であり、確認できた種は少なかった。</p> <p>動物については、「野鳥の森」ではコゲラ、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラといった樹林性の鳥類が確認され、「水鳥の池」ではカルガモ、バン、カワセミなど水辺に生息する種が確認された。また、林縁や草地などでヒガシニホントカゲ（千葉県：Bランク）、ニホンカナヘビ（千葉県：Dランク）、アマガエルなどの両生類・爬虫類、ムラサキシジミ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハなどのチョウ類が確認された。このほか、特定外来生物のウシガエルが「水鳥の池」近くの集水樹内で、アカボシゴマダラが「野鳥の森」の林縁のエノキで確認された。また、公園の管理作業員からアオダイショウ（千葉県：Dランク）が生息しているとの情報が得られた。</p>



※千葉県：ランクの選定基準は以下の通りです

- X：消息不明・絶滅生物
- A：最重要保護生物
- B：重要保護生物
- C：要保護生物
- D：一般保護生物
- RH：保護参考雑種

資料：千葉県レッドリスト 植物・菌類編 2017年改訂版
千葉県レッドリスト動物編 2019年改訂版

(公園内の芝地)





(野鳥の森)



(湿生植物園)



調査地点	調査地点概要
<p>3. 谷津（河川沿い） 富里工業団地付近 の谷津</p>	<p>谷津の斜面林ではシラカシ、コナラ、ムクノキ、エノキなどの常緑樹・落葉樹の混交林が広くみられ、スギ・ヒノキ植林もみられた。斜面下の林縁ではゼンマイ、フモトシダ、ベニシダなどのシダ植物やヤナギイノコズチ、アキカラマツ、ワレモコウなどの草本類、ハシバミ（千葉県：Dランク）、コブシ、ゴンズイなどの木本類がみられ、里山環境を代表する種が多く生育していた。</p> <p>休耕田ではアカメヤナギなどが優占するヤナギ群落や、ヨシ、ガマ類などの抽水植物が優占する群落、ミゾソバなどが優占する低茎草本群落、やや乾燥した場所ではセイタカアワダチソウやチガヤが優占する箇所もみられた。また、ミズニラ（環境省：準絶滅危惧）も多数確認された。</p> <p>稲刈り後の水田やその周辺ではアカバナ、チョウジタデ、コナギなど水辺を好む種が多くみられた。</p> <p>動物については、水田やその周辺ではタヌキ、イタチ、アライグマ（特定外来生物）、ハクビシンの足跡や、カヤネズミ（千葉県：Dランク）の球巣が確認された。また、水辺に生息するダイサギやカワセミ、高次消費者であるオオタカ（環境省：準絶滅危惧、千葉県：Cランク）の飛翔が確認された。</p> <p>休耕田や日当たりのよい林縁の草地ではイチモンジセセリ、ベニシジミ、メスグロヒョウモン、キタテハ、ヒメアカタテハなどのチョウ類やシオカラトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボなどのトンボ類が確認され、谷津の斜面林ではカケス、ヤマガラ、シジュウカラなど樹林性の鳥類が確認された。</p>



（上流部の休耕田）

※千葉県：ランクの選定基準は以下の通りです

X：消息不明・絶滅生物

A：最重要保護生物

B：重要保護生物

C：要保護生物

D：一般保護生物

RH：保護参考雑種

資料：千葉県レッドリスト 植物・菌類編 2017年改訂版

千葉県レッドリスト動物編 2019年改訂版



調査地点	調査地点概要
<p>4. 畑地 両国沖付近の畑地</p>	<p>畑地周辺ではスギナ、カタバミ、ノボロギク、オヒシバ、カゼクサなど人為的な環境によくみられる種が生育していた程度で、確認種は少なかった。</p> <p>畑地に隣接して樹林地が帯状にみられ、スギ・ヒノキ植林やスダジイ、シラカシなどの常緑広葉樹、コナラ、ムクノキ、ケヤキなどの落葉広葉樹が生育していた。</p> <p>市営運動場の西側には調節池があり、アカメヤナギ、ヨシ、ガマ、ミゾソバなど湿地でみられる種が多く生育し、タコノアシ（環境省：準絶滅危惧）も確認された。</p> <p>動物については、畑地やその周辺の草地でアズマモグラ、ノウサギなどの哺乳類のほか、ヒバリ（千葉県：Dランク）、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワなどの鳥類、ヤマトシジミ、キタキチョウ、モンシロチョウなどのチョウ類が確認された。</p> <p>また、帯状に続く樹林地や島状に点在する植木圃場の周辺ではアマガエル、アオダイショウ（千葉県：Dランク）、ヒバカリ（千葉県：Dランク）などの両生類・爬虫類やアズマモグラ、タヌキなどの哺乳類、コゲラ、カケス、ヤマガラ、エナガなどの樹林性の鳥類が確認された。</p> <p>このほか、特定外来生物のウシガエルが市営運動場付近の水路と調節池で、アカボシゴマダラがテニスコート脇のエノキで確認された。</p>



※千葉県：ランクの選定基準は以下の通りです

- X：消息不明・絶滅生物
- A：最重要保護生物
- B：重要保護生物
- C：要保護生物
- D：一般保護生物
- RH：保護参考雑種

資料：千葉県レッドリスト 植物・菌類編 2017年改訂版
千葉県レッドリスト動物編 2019年改訂版

(調整池のヨシ群落)



(1) 動物

3-1 哺乳類

本市で生息が確認された哺乳類は7種です。



(タヌキの足跡)

3-2 鳥類

本市で生息が確認された鳥類は29種です。



(カケス)



(モズ)



(ホオジロ)



(カワセミ)



(シジュウカラ)



3-3 両生類・爬虫類

本市で生息が確認された爬虫類は5種、両生類は5種です。



(アマガエル)



(アオダイショウ)



(ヒガシニホントカゲ)

3-4 昆虫類

本市で生息が確認された昆虫類は38種です。



(アキアカネ)



(オオアオイトトンボ)



(クロアゲハ)



(ツマグロヒョウモン)



- 課題**
- ◇重要な動物及び生息地の保全
 - ◇多様な動物が生息できる環境の保全
 - ◇野生動物の生息・生育情報の収集・分析
 - ◇外来種対策の充実

(2) 植物

本市で生息が確認された植物種は383種です。



(ヒメジョオン)



(ツリフネソウ)



(ミゾソバ)



(ヤマハッカ)

- 課題**
- ◇重要な植物・植物群落及び生息地の保全
 - ◇多様な植物・植物群落が生息できる環境の保全
 - ◇野生植物の生息・生育情報の収集・分析
 - ◇外来種対策の充実



第3節 生活環境の現状と課題

1 河川水質

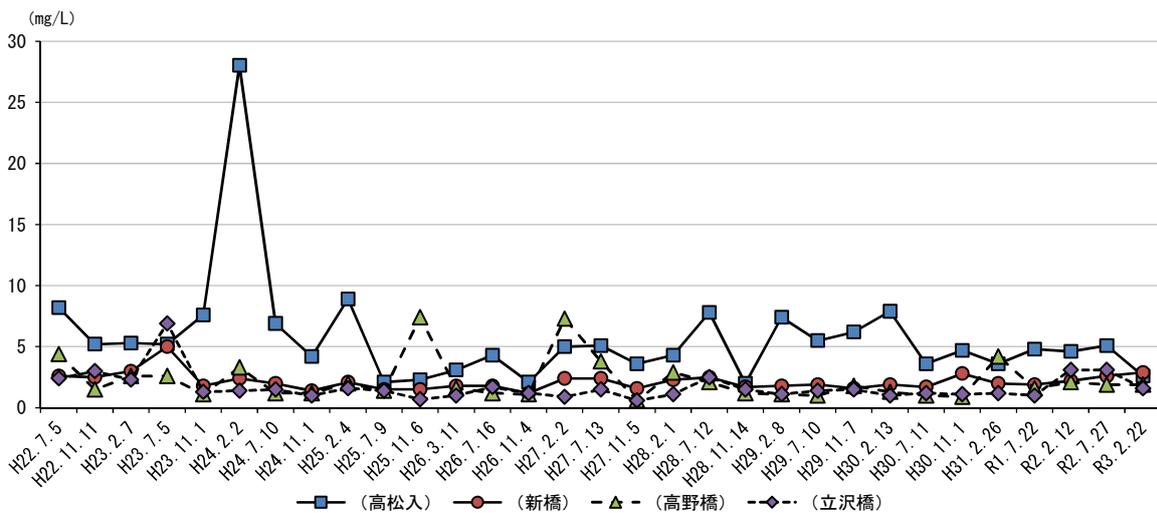
「環境基本法」に基づく水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全に関する項目については、河川ごとに類型がA A～Eまで指定されています。本市内を流れる高崎川、根木名川、木戸川、江川で年2回の河川水質調査を継続して行っています。

一部の河川では、水質結果が環境基準を上回っており、水質の改善が必要となっています。

2-1-1 高崎川

高崎川では、高松入、新橋、高野橋、立沢橋の4地点で水質調査を行っています。印旛沼に流入する高崎川の環境基準はC類型〔水の汚れを示す生物化学的酸素要求量（BOD）は5mg/L〕に指定されていますが、令和2年度では一部の地点において環境基準を上回っています。

平成24年2月の高松入では、著しい数値となっていますが、水質調査は天候等に左右される側面もあるため、考慮しないものとします。



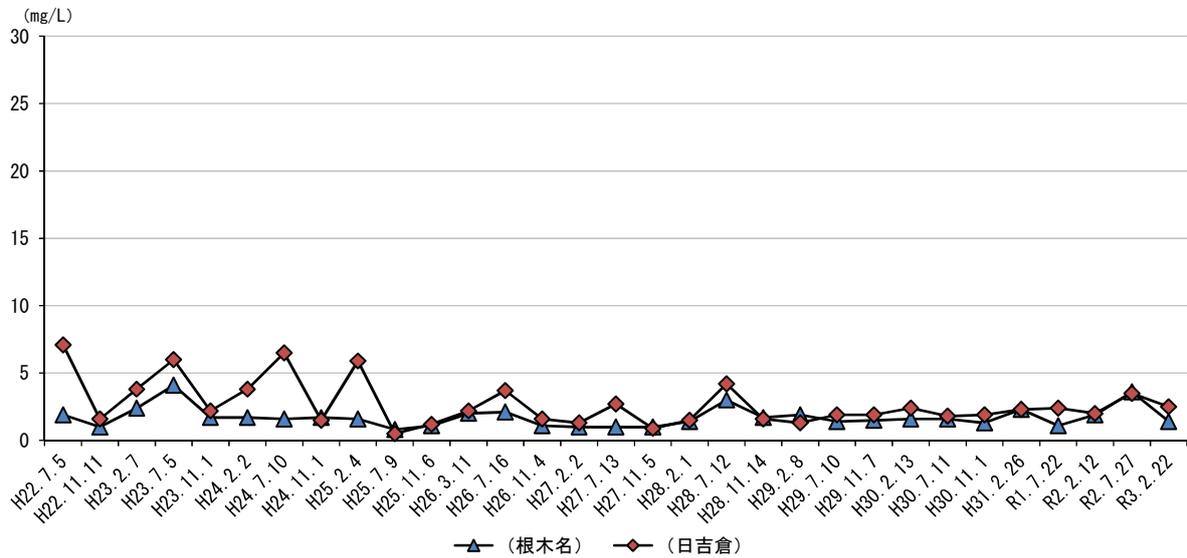
資料：環境課

図 河川水質調査結果（高崎川）



2-1-2 根木名川

根木名川では、根木名、日吉倉の2地点で水質調査を行っています。利根川の支流である根木名川の環境基準はB類型〔水の汚れを示す生物化学的酸素要求量（BOD）は3mg/L〕に指定されていますが、各地点の令和2年度における比較では、ともに環境基準を達成しています。

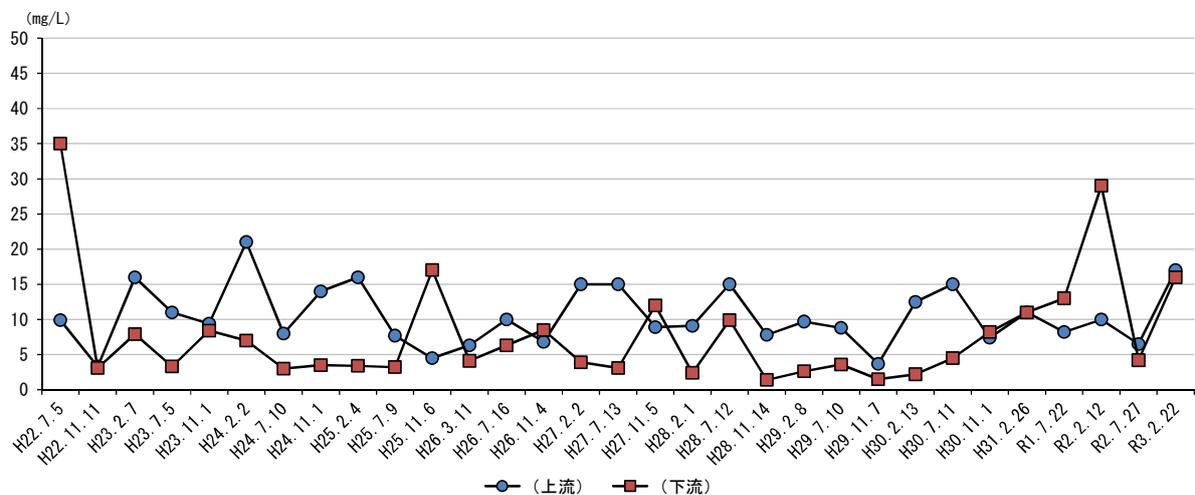


資料：環境課

図 河川水質調査結果（根木名川）

2-1-3 木戸川

木戸川では、本市内の上流部と下流部の2地点で水質調査を行っています。太平洋へ流入する木戸川の環境基準はA類型〔水の汚れを示す生物化学的酸素要求量（BOD）は2mg/L〕に指定されていますが、令和2年度は上流部、下流部ともに環境基準を上回っています。この原因については、木戸川は水量が少なく、流域から流入する生活雑排水の影響を受けやすいことが考えられます。



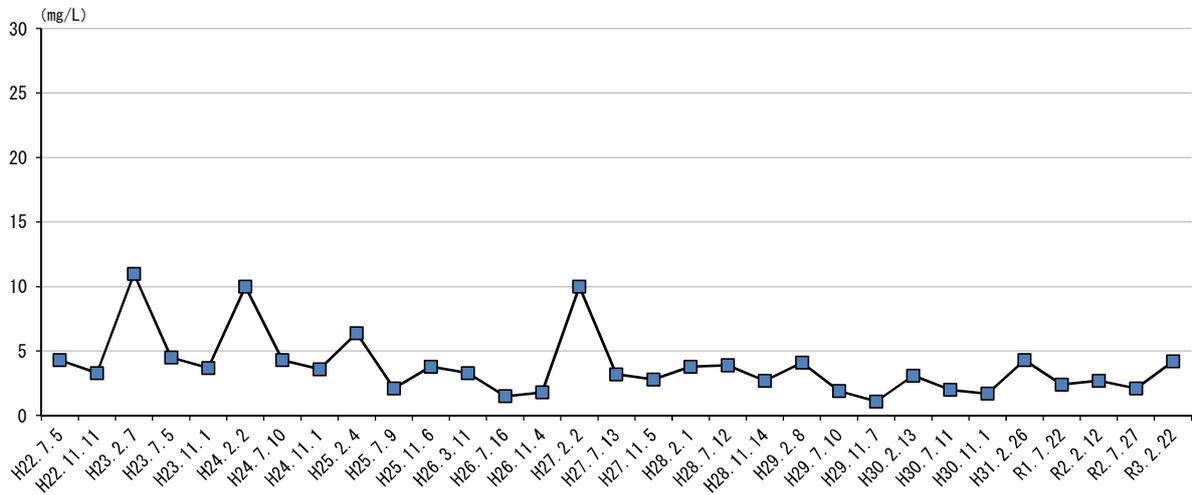
資料：環境課

図 河川水質調査結果（木戸川）



2-1-4 江川

江川では、上流部の1地点で水質調査を行っています。江川の水質環境基準は指定されていませんが、同じ印旛沼に流入する高崎川の水質環境基準C類型〔生物化学的酸素要求量（BOD）5mg/L〕と比較すると、平成27年7月の調査以降環境基準を達成しています。



資料：環境課

図 河川水質調査結果（江川）

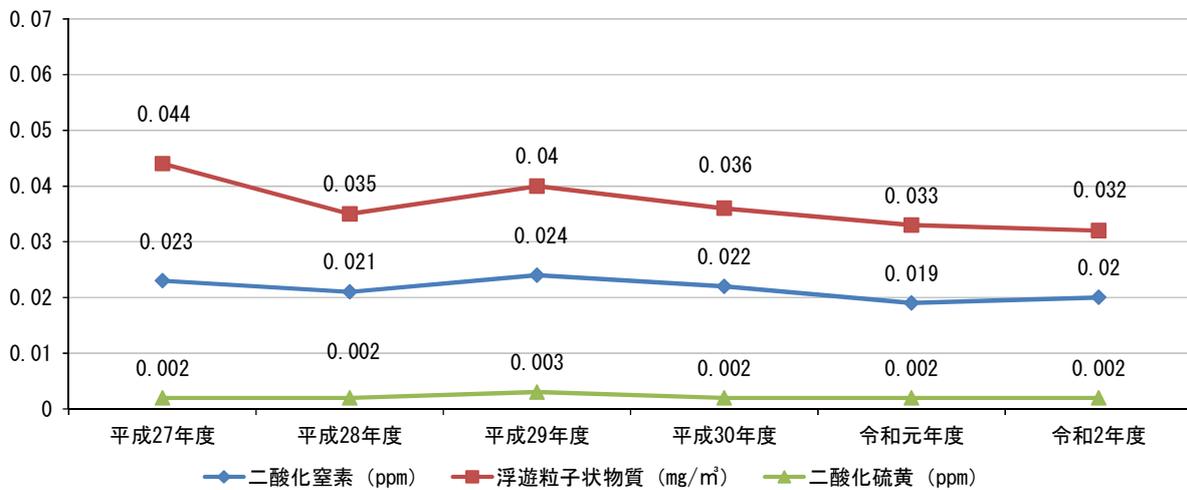
- 課題**
- ◇良好な河川水質の維持
 - ◇用水での局地的な水質汚濁



2 大気質

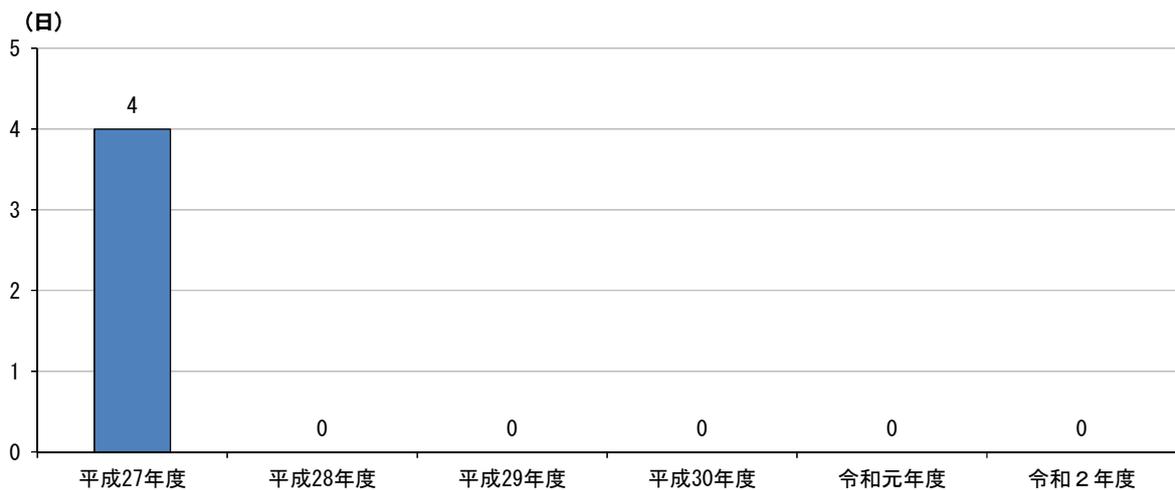
市内には、大気環境常時測定局は設置されていません。参考までに隣接する成田市（加良部）の測定結果をみると、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、二酸化硫黄は、環境基準を満たしており、浮遊粒子状物質については減少傾向にあります。下図に示すように、光化学スモッグ注意報は、近年発令されていません。

しかし、近年では光化学スモッグ及びPM2.5に加え、二酸化炭素等の温室効果ガスを原因とする地球温暖化により、熱中症による健康被害が懸念されています。健康被害を最小限に留めるため、住民への速やかな周知が重要となります。



資料：千葉県環境白書

図 大気汚染の状況



資料：千葉県環境白書

図 光化学スモッグ注意報発令日数

- 課題**
- ◇良好な大気環境の維持
 - ◇野焼き等による局地的な大気汚染の発生の防止



3 騒音

成田空港では、空港周辺地域における航空機騒音の監視測定を開港当初から行っています。市内にある測定局の令和2年度の測定結果は、環境基準の57デシベルを下回る値となっています。

表 測定結果（令和2年度）

測定局	環境基準 類型	Lden(デシベル)		騒音区分
		年平均	日最大	
大和	I 類型	44	55.3	無指定

資料：千葉県

課題 ◇騒音の少ない良好な環境の維持
◇局地的な騒音の発生

4 土壌

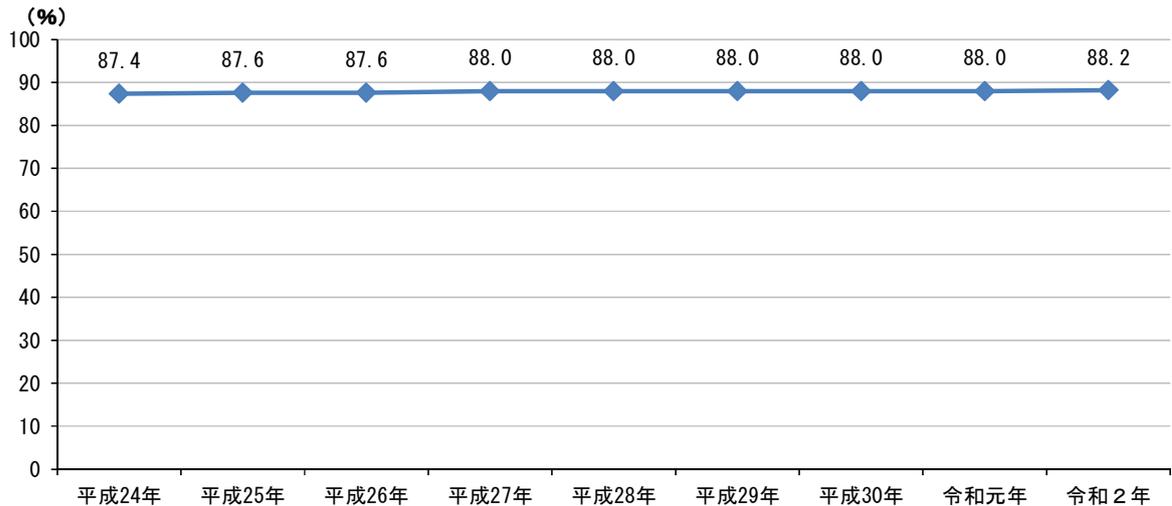
市内には、土壌汚染対策法に基づく指定区域はありません。また、千葉県で実施している農用地の土壌の汚染防止等に関する法律に基づく農用地土壌汚染対策地域の指定もありません。

課題 ◇土壌汚染のない良好な環境の維持

5 道路・交通

市内の道路の整備状況は、国道及び県道については舗装率が100%となっていますが、市道は令和2年現在で88.2%となっています。





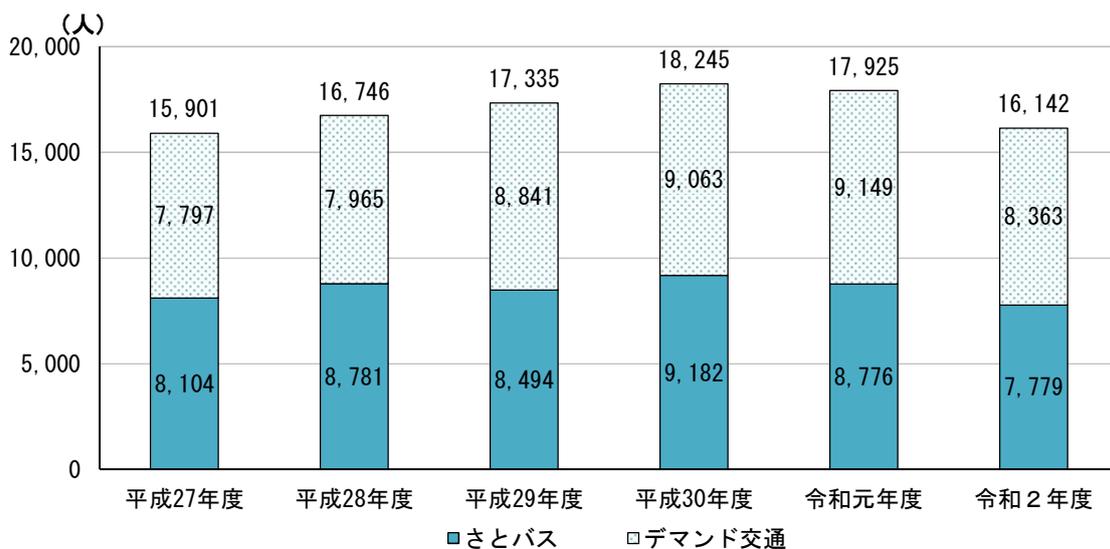
資料：富里市統計書

図 市道舗装率

市内の公共交通機関として「路線バス」及び「富里市さとバス・デマンド交通」があります。本市が運行する「さとバス・デマンド交通」は、路線バスを補完する役割を担っており、路線バスの運行経路以外の、いわゆる「交通空白地域」を運行しています。

「さとバス」は、主に新橋、根木名、高松、十倉の4つの地域を運行していましたが、平成25年度からは運行地域が新橋地域のみとなりました。乗車人員は令和2年度で延べ7,779人と、平成27年度の本格運行以降、利用者数は減少傾向となっています。

根木名、高松、十倉の3つの地域は、平成25年度から予約があった場合のみ運行する完全予約型のデマンド交通に運行形態を見直し、効率化を図りました。



資料：企画課

図 さとバス・デマンド交通乗車人員



道路交通量は、東関東自動車道や国道409号を除き、平成27年度は平成22年度より減少しています。

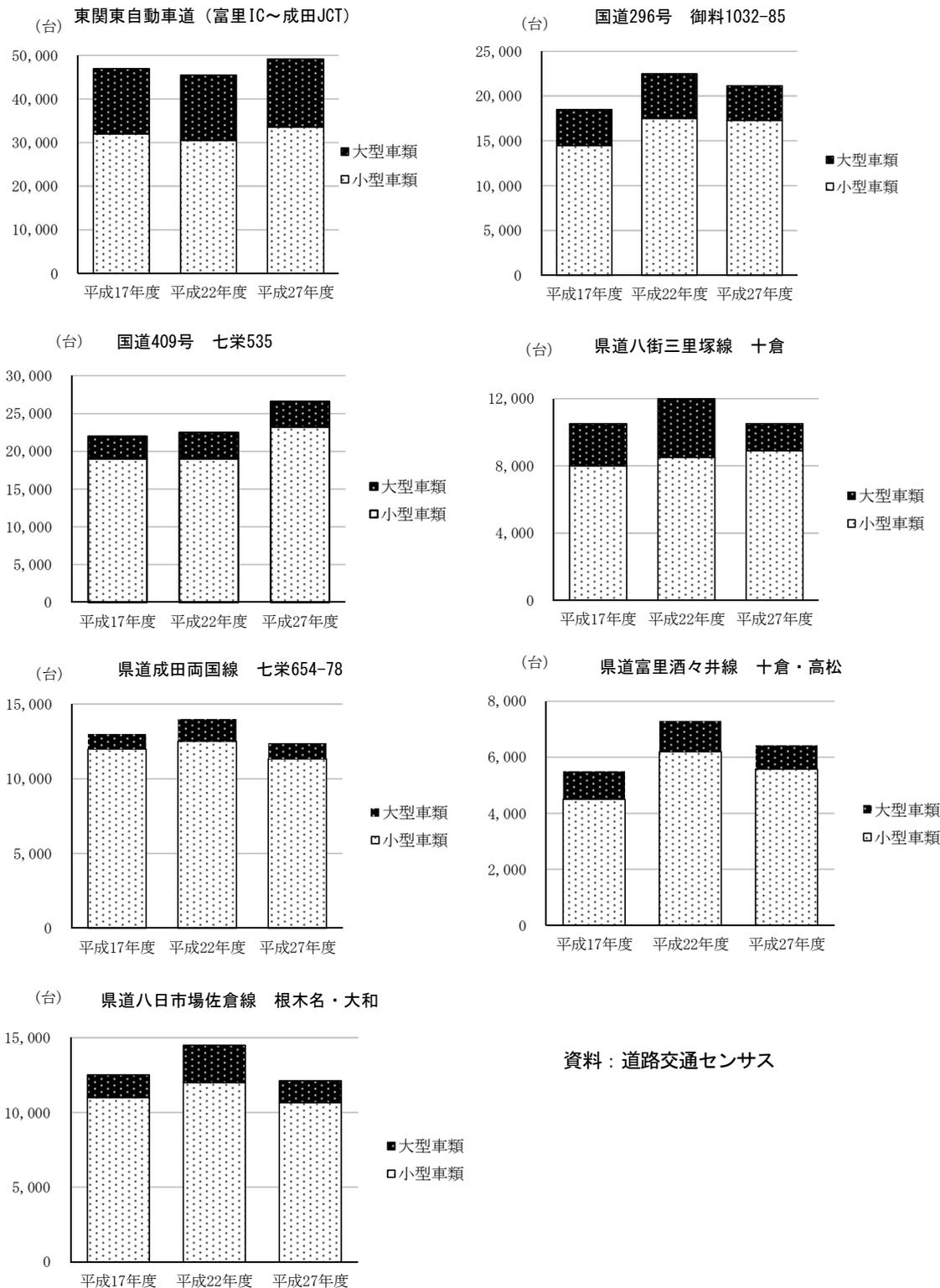


図 路線別交通量

- 課題**
- ◇公共交通機関の利用者の減少
 - ◇幹線道路の慢性的な交通渋滞



6 有害化学物質

我が国において商業的に用いられている化学物質は数万種類と言われ、これらの化学物質は日常生活及び事業活動の各段階（製造～廃棄）において環境中に放出されています。

これらの化学物質の中には、極微量でも健康被害や生態系へ影響を及ぼすものや、当初は有害性の認識が無くても数十年の使用期間を経て有害性が判明するもの等が報告されています。

国際的には、「水銀に関する水俣条約」「残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約」などの化学物質対策に係る国際条約などが締結され、国際的な取組の重要性が増しています。

国内では、こうした化学物質の移動や排出を管理することにより、リスクを低減させていくため、「化学物質排出移動登録制度（PRTR制度）」などの取組が実施されています。

化学物質の中には、現時点において環境影響が明らかにされていない物質もあるため、これらについては各種の情報収集を行っていく必要があります。

課題

◇PRTR 制度の運用と活用

◇環境影響が明らかになっていない物質の存在



第4節 循環型社会の現状と課題

1 新エネルギー

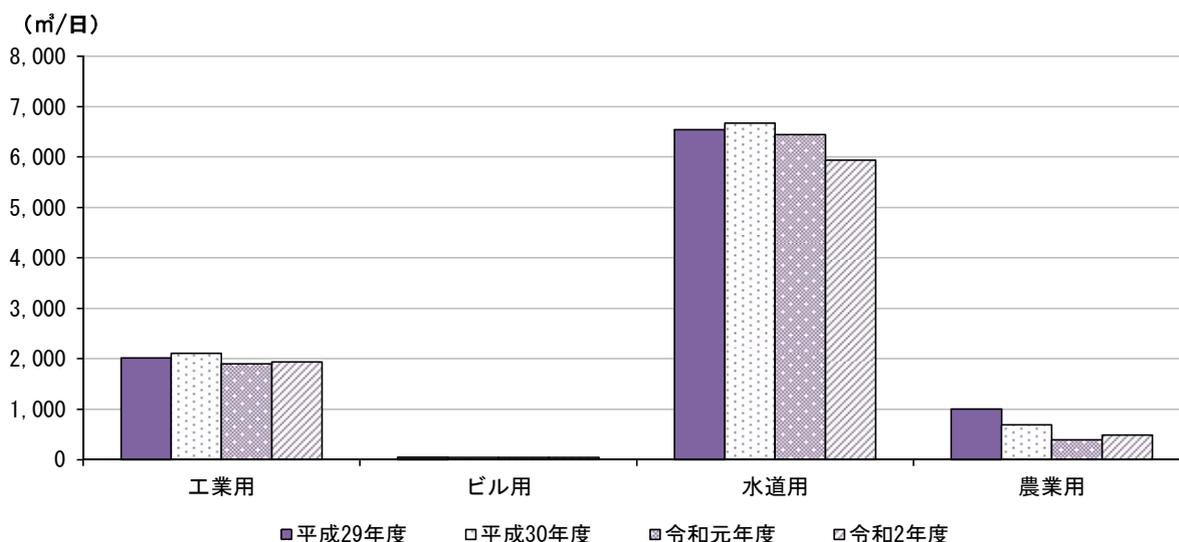
国は、環境特性に優れた性質を示す新エネルギー（石油代替エネルギー）の導入に係る長期的な目標達成に向けた進展を図ることを目的として、平成9年に「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」を制定しました。

今後も、新エネルギーの導入を積極的に行っていく必要があるため、本市内における発電量などの実態を把握し、新エネルギー導入を推進する必要があります。

課題 ◇新エネルギー利用設備の導入の推進
◇市民・事業者への普及と啓発の推進

2 水循環

市内の一日当たりの地下水揚水量は8,788 m³となっています。揚水による影響を把握するため、地盤変動量を測定している水準点は13箇所です。平成23年度は東日本大震災の影響もあり、最大地盤沈下量が7.09 cmとなっていますが、令和2年度は最大2.47 cmで推移していました。



資料：千葉県環境白書

図 用途別地下水揚水量の推移

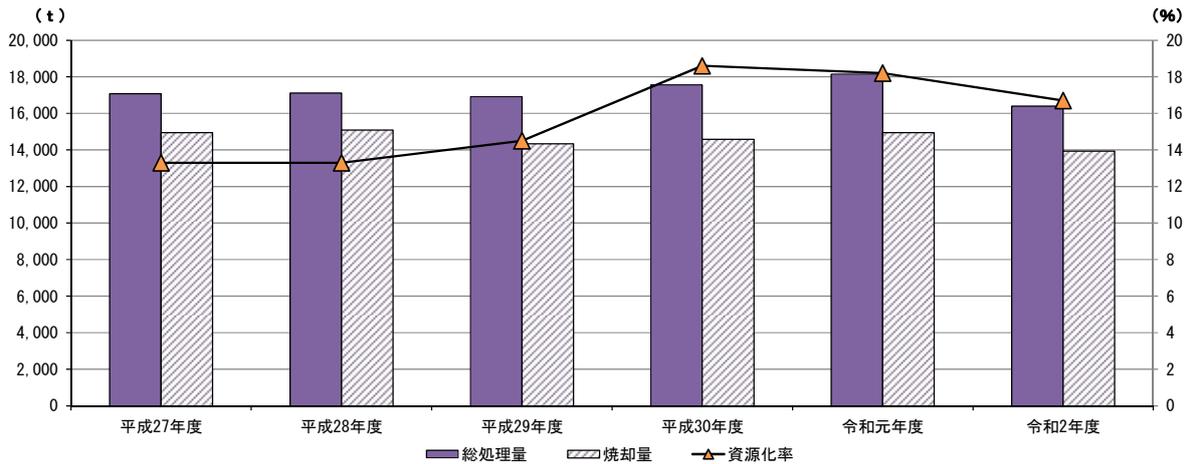
課題 ◇安定した水循環



3 廃棄物

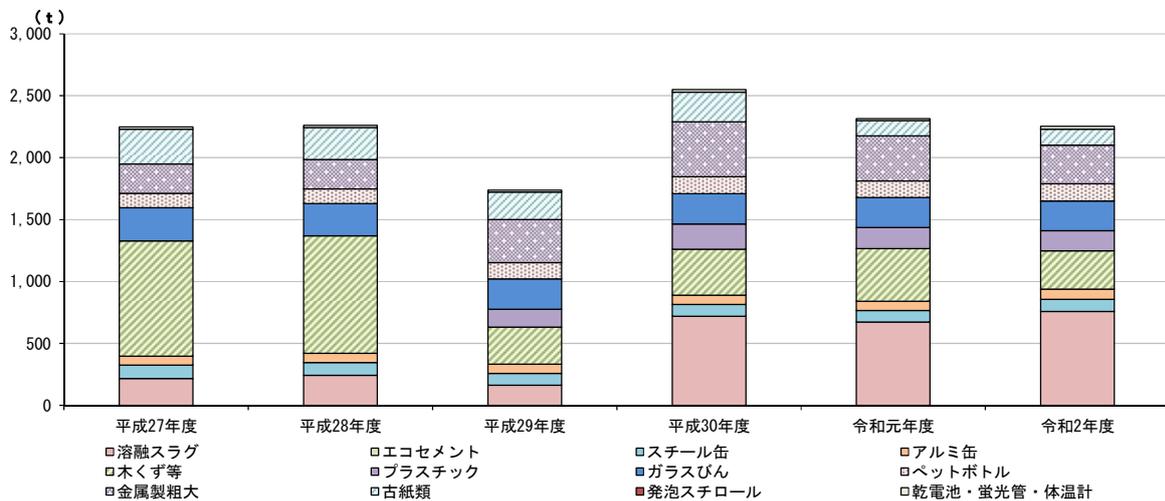
本市ではごみを可燃ごみ、不燃ごみ、ガラスびん、ペットボトル、紙パック、有害ごみ、粗大ごみの7つに分別し、それぞれ減量化を推進していますが、一般廃棄物の総処理量及び焼却量は横ばいとなっています。

また、資源化量については、平成30年度から「成田富里いずみ清掃工場」で発生した溶融スラグをアスファルト骨材として有効活用を図るなど、資源化の推進に努めています。



資料：環境課

図 廃棄物の処理状況



資料：環境課

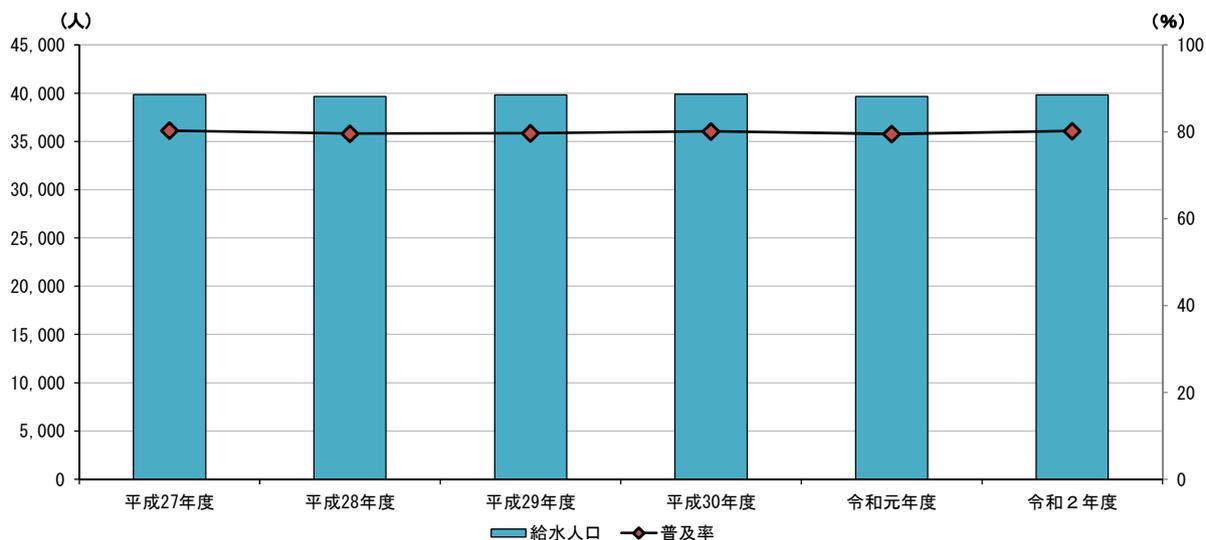
図 資源化量の推移

- 課題**
- ◇ 廃棄物の排出抑制
 - ◇ リサイクルの推進
 - ◇ 不法投棄やポイ捨ての防止対策の充実
 - ◇ 環境美化の推進



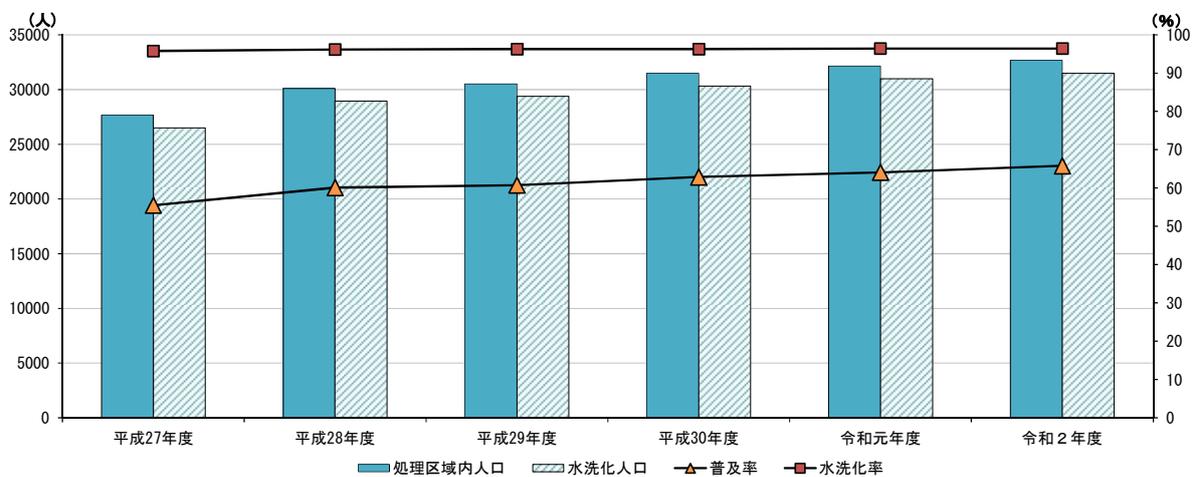
4 上下水道

上水道の令和2年度末の給水の普及率は80.2%で、給水人口と普及率はほぼ横ばいで推移しています。下水道については、下水道の整備計画を基に整備を進め、令和2年度末の下水道の普及率は63.4%、処理区域内での水洗化率は96.4%です。



資料：富里市統計書

図 給水人口と普及率の推移



資料：富里市統計書

図 下水道整備状況の推移



下水道のほか、生活排水の処理形態として、合併処理浄化槽、単独処理浄化槽があります。生活排水を下水道又は合併処理浄化槽で処理している割合は、令和2年度末で95.6%となっています。なお、非水洗化（汲み取り）し尿及び合併処理浄化槽汚泥については、印旛衛生施設管理組合の汚泥再生処理センターにおいて堆肥化され、再生利用されています。



資料：環境課

図 下水道・生活排水処理人口割合の推移

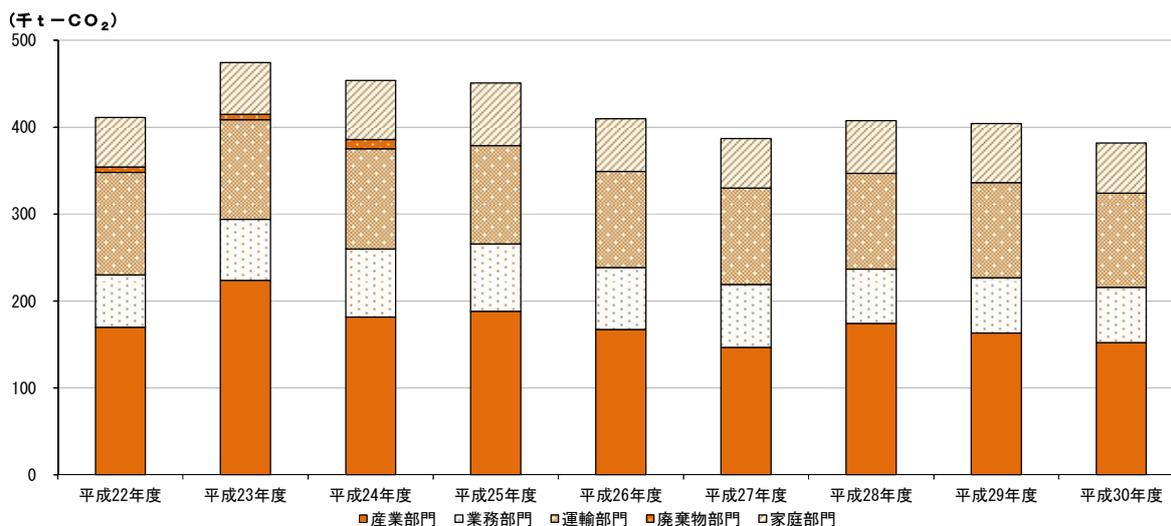
課題 ◇下水道の普及



第5節 地球環境の現状と課題

1 地球温暖化

本市全域における温室効果ガス排出量は、傾向として平成23年度以降減少しましたが、その後平成28年度に増加しています。一方、部門別にみると、業務部門及び家庭部門の排出量は横ばいであり、その他の部門については年度によって変動がみられます。



資料：環境省（地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）簡易版の推計手法による算出）

図 部門別温室効果ガス排出量の推移

課題 ◇温室効果ガスの排出量の増加

第6節 環境保全行動の現状と課題

市民と協働で推進している環境保全活動は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施が困難となりました。令和元年度の実績は、市内全域を対象としたゴミゼロ運動を令和元年5月26日実施、ポイ捨て“ナイナイ”キャンペーンではポイ捨て防止を呼びかけるためにのぼり旗や横断幕を設置、アダプトプログラムでは清掃活動に必要な用具を支給する支援を行いました。

行政の取組としては、不法投棄監視員及び環境美化推進員の委嘱によって、市内パトロール等を実施しています。

課題 ◇市民・事業者・行政が協働した取組の推進



第7節 市民・事業者意識調査による現状と課題

1 目的

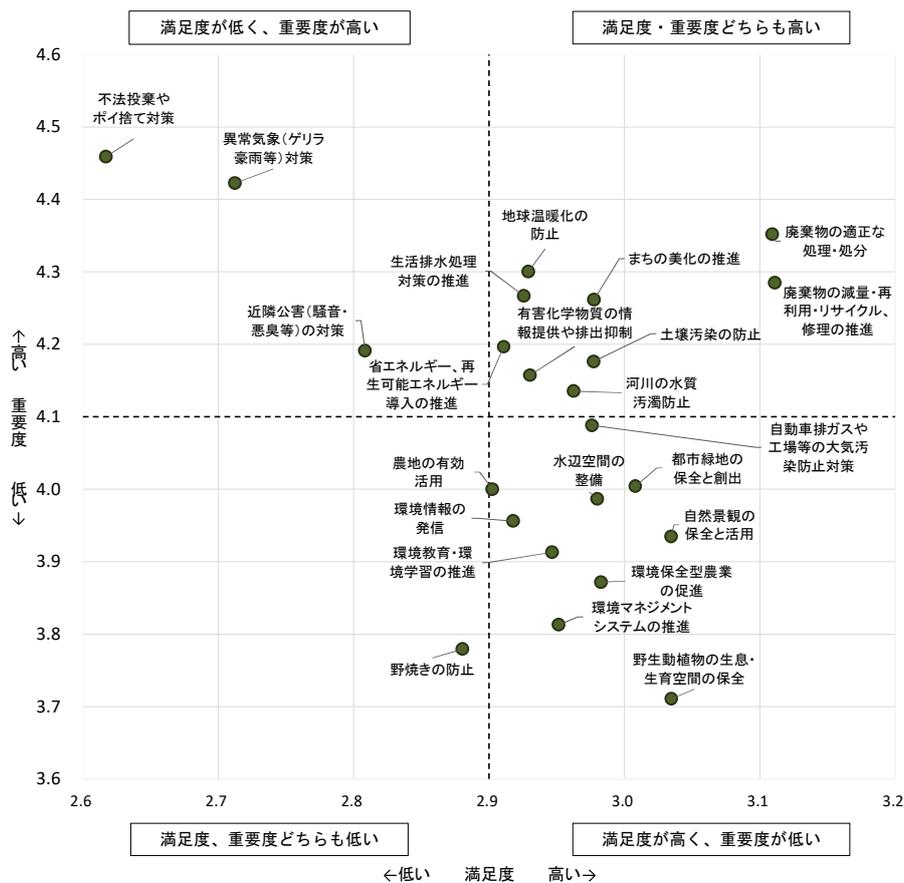
富里市環境基本計画の策定に当たり、市民、事業者の皆様と共に進めていくことが重要であることから、市民・事業者のみなさまから意見等を伺い、計画策定の基礎とするために実施しました。

2 市民アンケート調査

- (a) 調査対象 本市に居住する18歳以上の男女 2,000人
- (b) 調査期間 令和2(2020)年12月1日～12月21日
- (c) 回収数 784人(回収率39.2%)

3 事業者アンケート調査

- (a) 調査対象 本市内の100事業者
- (b) 調査期間 令和2(2020)年12月1日～12月21日
- (c) 回収数 40事業者(回収率40.0%)



※アンケート結果の詳細は資料編に掲載しています。

図 市民アンケート結果における満足度・重要度

課題 ◇不法投棄やごみのポイ捨てに対する満足度・重要度

